

「英語で教室から世界とつながる」プラットフォーム事業 “Opening a New World from the Classroom” Project, Hiroshima



Plookpanya School



三原市立宮浦中学校

交流授業

学 年：第3学年
単元名：Stage Activity 2 Discover Japan
(NEW HORIZON English Course 3)
ねらい：日本文化や自分の好きなものについて、詳しい情報を加えながら紹介することができる。

互いの国の文化クイズを出し合う様子



互いに好きなものを紹介し合う様子



活動内容：

①日本文化・タイ文化紹介（グループ）

両校の生徒が自国の文化についてのクイズをGoogleスライドで作成し、出題し合った。選択肢での回答とし、クイズの内容に関するやり取りを重視した活動を行った。

②好きなもの紹介（グループ）

自分の好きなものを1つ選び、Googleスライドでプレゼンテーション資料を作成して紹介した。日本の生徒が先に紹介し、その後、タイの生徒が紹介した。

③質疑応答（グループ）

①②の活動が終わり、時間があつたグループは互いに質問をし合った。教員は、事前に質問リストを作成しておき、生徒が質問をする際にヒントを得られるよう支援した。

≪接続方法：Google Meet≫

大切にしたこと

- ・高い英語力がなくても、誤りのない完璧な文章ではなくても、相手に伝えようとする気持ちがあれば相手に伝わると生徒を励まし、あきらめずに、失敗を恐れずコミュニケーションを図るよう声掛けをした。
- ・異なる文化をもつ相手との交流で、相手を尊重することの大切さを伝えながら、楽しく学びのある交流にするためのルールやマナーを意識させた。
- ・他国の生徒と交流する上で、「相手は日本について、どんなことが知りたいかな」「どんなことを伝えたら面白いと感じてくれるかな」と問い、相手意識をもつことについて指導した。

交流を終えて

生徒の声

- ・タイの生徒と交流をして前は十分にやり取りができなかったけれど、今回はタイの料理を教えてもらったり、「おはよう」など少しだけ日本語を話してくれて驚いた。
- ・タイの生徒が自分の名前を何度も覚えようとしてくれたので嬉しかった。
- ・国や文化が違っても英語が話せることでコミュニケーションが取れることの喜びを知った。アドリブで質問したり、答えたりするのは難しいと思った。
- ・文法に誤りがあっても、単語を正しく使えば通じることもあるということが分かった。

先生の声

- ・実際に英語を使って、ALT以外の相手に話すことで、英語を学ぶことの必要性を学び、英語学習のモチベーションを上げることができた。
- ・グループで試行錯誤しながらクイズを作成したり、よりよいプレゼンテーションができるように互いの発表を見合ったりしながら、協働的に学びに取り組む姿勢が見られた。
- ・相手校とのグループ編成についての確認ができておらず、活動が十分に行えなかったグループがあつたため、事前の詳細な連携が必要である。
- ・生徒は話される英語のスピード感についていけず、会話がうまく続かない実態があつた。